

2019年度【名古屋地区】

登録ALC基幹技能者講習 修了試験  
問 題

1. 試験時間：60分
2. 問題数：25問（四者択一式：「最も不適當」な選択肢を選ぶ）

問題 1 登録基幹技能者に備えておくべき事項に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 熟達した運動能力
- 2 豊富な知識
- 3 現場を効率的にまとめるマネジメント能力
- 4 (一社)ALC協会の資格認定を受けたもの

問題 2 登録ALC基幹技能者の仕事内容に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 施工管理技術者への施工方法の提案や調整を行う。
- 2 他職種の登録基幹技能者や職長に対して、前工程や後工程に配慮した連絡調整を行う。
- 3 登録ALC基幹技能者の部下の技能労働者には現場のマネジメントを教育する。
- 4 登録ALC基幹技能者の部下の技能労働者の作業を含む施工に係る指示や指導を行う。

問題 3 登録基幹技能者の制度に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 初級技能者を「見習い」という。
- 2 中級技能者を「中堅技能者」という。
- 3 上級技能者を「基幹技能者」という。
- 4 最上級技能者かつ上級職長であり資格試験に合格したものを「登録基幹技能者」という。

問題 4 元請企業団体における登録基幹技能者の評価・活用の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 ゼネコンA社 — A社マイスター制度
- 2 ゼネコンB社 — B社優良職長制度・マイスター
- 3 ゼネコンC社 — C社コンストラクション・マイスター制度
- 4 ゼネコンD社 — D社インセンティブ制度

問題5 登録基幹技能者に求められる十分な経験や熟達した作業能力及び現場をまとめる管理能力の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

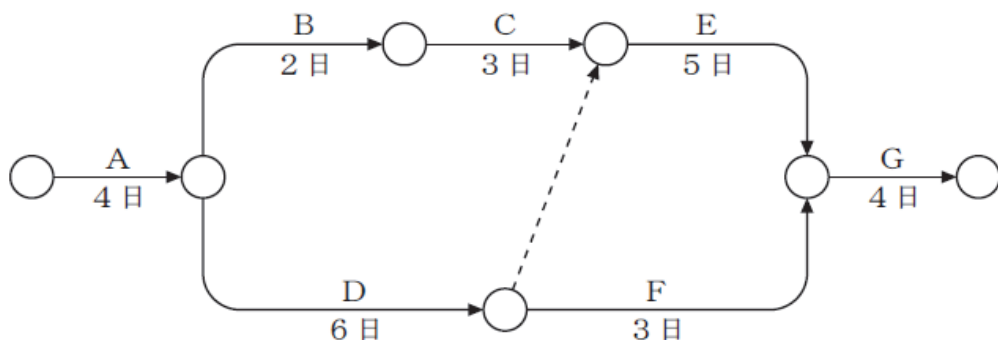
- 1 一般の技能者を指揮・監督できるだけの十分な作業能力を有する。
- 2 出来上りの点検、工事の是正ができる。
- 3 未熟練の作業者をレベルアップさせるOJTを行う能力を有する。
- 4 経験と勘による作業を行うことのできる能力を有する。

問題6 OJT教育の目標設定において重要なポイントに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 教える相手に対して、何をどの程度教えるのか把握した上で指導する。
- 2 現場における技能者の中から最も技量の低い技能者のレベルに教育目標を設定する。
- 3 目標の設定は、ニーズを踏まえて、個々の職階に求められる役割・技能と教育・訓練事項を定める。
- 4 教育訓練計画に沿って、個別の指導をすることが必要である。

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 このプロジェクトの所要日数（工期）は、20日である。
- 2 この工程表は、ネットワーク式工程表である。
- 3 この工程表のクリティカルパスは、A→D→E→Gである。
- 4 この工程表における点矢線はダミーである。



問題8 わが国の建設業における労働災害の現状に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 建設業の安全対策が難しい理由の一つとして、作業内容が日々変化するため作業員の作業の慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。
- 2 建設工事全体の死亡事故の型別でみると、墜落による事故が70%と圧倒的に多い。
- 3 労働災害が大きく減少した最も大きな理由は、建設投資額の減少ではない。
- 4 労働災害減少の要因の1つとして、より安全な施工法、省人化、大型化などが挙げられる。

問題9 特性要因図作成のためのブレインストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 判断・結論を出さない。(結論厳禁)
- 2 粗野な考えを歓迎する。(自由奔放)
- 3 質を重視する。(量より質)
- 4 アイディアを結合し、発展させる。(結合改善)

問題10 建設業法における建設工事の見積り等に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 建設工事の請負契約を締結する際に、工事内容に応じて、工事種別ごとに材料費、労務費、その他の経費の内容を明らかにして建設工事の見積もりを行う。
- 2 建設工事の注文者から請求があったときは、請負契約が成立するまでの間に当該見積書を交付する。
- 3 見積りを依頼する際に、工事名称や施工場所、設計図書や責任施工範囲等の元請負人が最低限明示する事項が決まっている。
- 4 下請負人が見積りを行うための期間は、いずれも5日以内となっている。

問題11 足場からの墜落防止対策強化に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 高さ2m以上の構造の足場の組立等の際には、困難な場合を除き、幅40cm以上の作業床を設置する。
- 2 建設業の元請事業主等の注文者は、足場の組立て等の後は、次の作業を開始する前にその状態を点検し、危険のおそれがあるときは、速やかに修理しなければならない。
- 3 一側足場、つり足場を除く足場の作業床に関する墜落防止措置として、床材と建地との隙間を30cm未満とする。
- 4 鋼管足場のうち単管足場は、建地の下端に作用する設計荷重が最大使用荷重を超えないときは、鋼管を2本組としなくともよい。

**問題12 施工管理における三大管理とその関連性に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 工程と原価の関係は、施工速度を上げると単位時間当たりの出来高が増え、原価は安くなる。
- 2 工程と原価の関係で、施工速度を上げ過ぎると突貫作業となり、逆に原価は高くなる。
- 3 原価と品質の関係は、一般的に品質を良くすると原価は低くなるが、品質を下げると原価は高くなる。
- 4 品質と工程の関係は、品質の良いものは一般に時間がかかり施工速度は遅くなるが、品質を下げると施工速度は上がる。

**問題13 施工要領書の周知方法に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 関係作業員全員参加のもとで説明する。
- 2 安全、品質、工程の管理上の急所を入れて説明する。
- 3 他職種との関連工事について説明する。
- 4 近隣等への影響については敢えて説明せず、新規入場者教育時に説明する。

**問題14 見積原価の管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

- 1 土質、周囲の環境、近隣協定、駐車場の有無等、自社の施工に影響する現場条件を確認する。
- 2 設計図書で、不明確な点や図面間の相違点などがあれば、あらかじめ質疑する。
- 3 積算業務における数量は、設計図書から拾い出すのではなく、与えられた数量に実勢単価を乗じて原価を算出する。
- 4 支給品の有無や、他工区との取り合い部分の施工など、施工範囲を明確にする。

**問題15 専門工事業者の原価管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

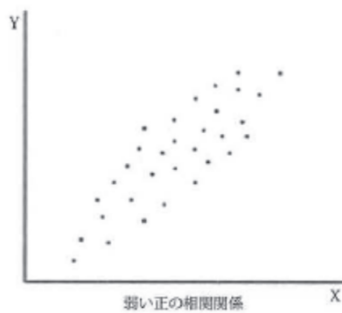
- 1 見積りの作成では、現場条件、施工範囲等を検討し、条件に合わせた見積りをするのが大切である。
- 2 見積書の経費では、直接工事費だけでなく、社会保険料等の企業負担分をはじめとした会社経費も確実に確保しなければならない。
- 3 見積りでは外注費として、労務費が㎡単価かm³単価等に含まれていることが多く、実際の施工段階では、この点について確認すればよい。
- 4 実行予算の段階では、実際に注文したり手配したりする数量で算定し、計画と実績の数量比較ができるようにしておくことが重要になる。

問題16 施工品質の確保・向上に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 建設現場の作業は、多くの技能者の個々の熟練や経験によって成り立っており、これによつてのみ施工品質が確保される。
- 2 施工品質を確保し、向上させるためには、可能な範囲で作業の標準化を図ることが必要である。
- 3 標準化した作業内容を文章化したものが、「作業標準書」である。
- 4 登録基幹技能者は作業標準書を熟知し、機会あるごとに施工チーム内にその内容が効果的に伝達されるようにしなければならない。

問題17 QC7つ道具に関して、最も不適当なものはどれか。

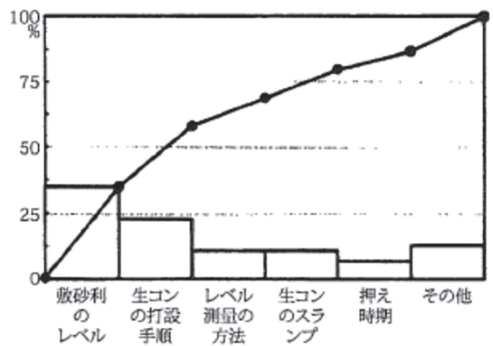
1 散布図



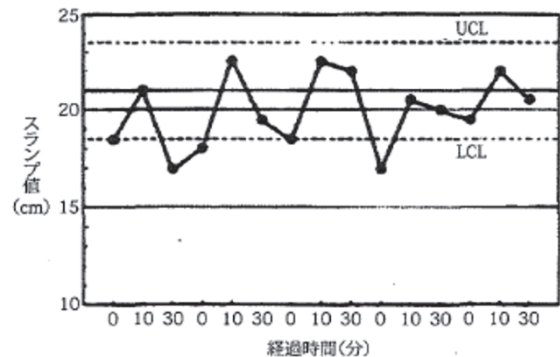
2 チェックシート

杭の偏心量	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
> 150	レ										
150 ~ 100	レ										
100 ~ 50	レ	レ	レ								
50 ~ 0	レ	レ	レ	レ							
0	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ
0 ~ -50	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ	レ			
-50 ~ -100	レ	レ	レ	レ	レ						
-100 ~ -150	レ										
< -150	レ	レ									

3 ヒストグラム



4 管理図



問題18 施工現場内でALCパネルの小運搬をハンドパレットトラックなどを用いて行う場合の通路幅に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 1 m
- 2 2 m
- 3 3 m
- 4 4 m

問題19 敷設筋(ふせつきん)構法における屋根用ALCパネルの取付けに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 パネル端部のかかり代は、主要支点間距離の1/75以上、かつ20mm以上必要である。
- 2 パネルを支持する小梁やかさ上げ鋼材の幅は100mm以上必要である。
- 3 パネルにおいて、開口部を設ける場合には、パネルを有効に支持するための受け梁を適切に設置する必要がある。
- 4 パネルにおいて、柱まわりなどでパネルを切り欠いた場合には、切り欠いた部分を支持するための下地を設置する必要がある。

問題20 外壁用ALCパネルの開口部の割付けに関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 1200mm幅の開口部を600mm幅のパネル2枚を用いて割り付けた。
- 2 900mm幅の開口部を600mm幅と300mm幅のパネルを用いて割り付けた。
- 3 900mm幅の開口部を450mm幅のパネル2枚を用いて割り付けた。
- 4 900mm幅の開口部を600mm幅のパネル2枚を用い、うち1枚を切り欠いて割り付けた。

問題21 ALCパネル工事の工程表の作成において考慮すべき事項に関して、最も不適当なものはどれか。

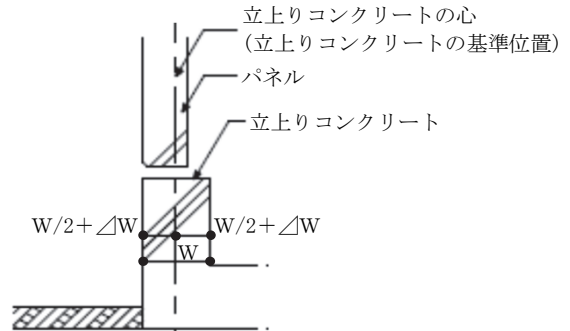
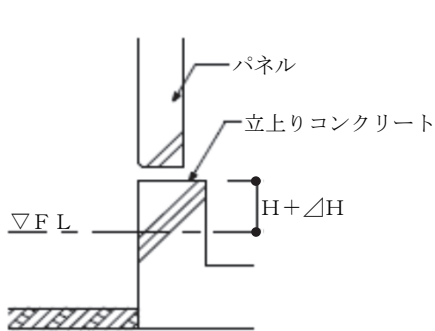
- 1 工程計画においては、施工図承認に要する日数、パネルの生産に要する日数を考慮する。
- 2 パネルの納品までの日数は、時季などによる影響はない。
- 3 工程表の作成にあたって施工者は、専門工事業者と協議する。
- 4 パネルの取付けの工程は、気象条件、施工機械の能力、ストックヤードの面積、作業員の編成を考慮する。

問題22 ALCパネル工事の工事検査の項目に関して、最も不適当なものはどれか。

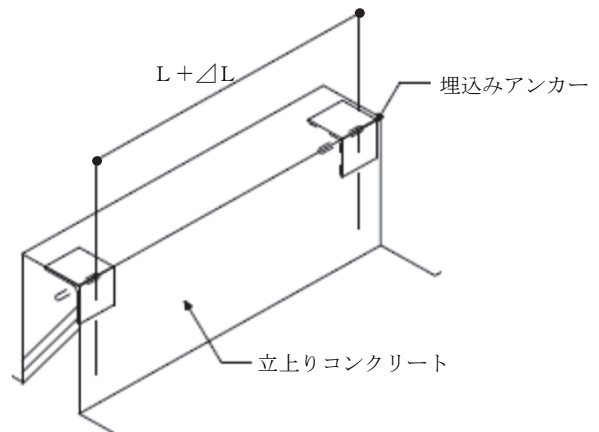
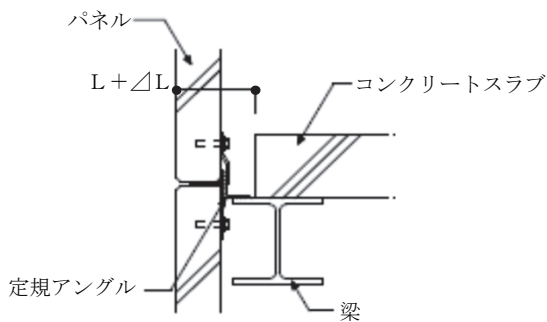
- 1 パネルの保管、養生状態の検査
- 2 パネル廃材の処理状況検査
- 3 下地鋼材の取付け検査
- 4 パネルの取付け検査、傷及び欠け等の検査

問題23 ALCパネル工事の下地の検査項目の検査方法と測定箇所の説明に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 立上りコンクリートのレベル：  
基準レベル（FL）から、立上りコンクリートまでの高さ（ $H+\Delta H$ ）を測定する。
- 2 立上りコンクリートの通り：  
立上りコンクリートの心（基準位置）から、立上りコンクリートの側面までの距離（ $W/2+\Delta W$ ）を測定する。



- 3 コンクリートスラブなどの止め位置（定規アングル取付けのため）：  
コンクリートスラブなどの止め位置から、計画上のパネルの屋外側表面までの距離（ $L+\Delta L$ ）を測定する。
- 4 埋込みアンカーのピッチ：  
埋込みアンカー間の距離（ $L+\Delta L$ ）を測定する。



問題24 ALCパネルの材料の説明に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 パネルは、表面加工の有無により平パネルと意匠パネルに区分される。
- 2 パネルは用いられる部位により、外壁用、間仕切壁用、階段用、床用の4種類に区分される。
- 3 床用パネルは、要求される耐火性能により、耐火1時間の床用パネルと耐火2時間の床用パネルに区分される。
- 4 特殊処理を施したパネルには、ALCの吸水性を少なくするために、パネル表面に下地処理を施したものがある。

問題25 外壁用ALCパネル間の目地部に用いるシーリング材の種類に関して、最も不適当なものはどれか。

- 1 シリコーン系
- 2 ポリウレタン系
- 3 変成シリコーン系
- 4 アクリルウレタン系